

# ぬまくまの地域づくり

「自らの地域は、自らが知恵を出し、汗を流し、住みよいものに創り育てる」

ぬまくまの地域づくりを知っていますか？

ぬまくまの地域づくりは、1983年(昭和58年)に旧沼隈郡沼隈町ではじまりました。「自らの地域は、自らが知恵を出し、汗を流し、住みよいものに創り育てる」という言葉は、ぬまくまの地域づくりの基本理念です。かつては誰から言われるでもなく、住民が互いに助け合って地域を創り、地域課題を解決してきました。しかし、80年代は一億総中流と言われた時代…。いつのまにか住民の地域への関心が薄れていきました。そんな中始められたのが「ぬまくまの地域づくり」です。

## すべて住民の手で

ぬまくまの地域づくりは、計画から実施まですべて住民の手で行われました。もちろん最初から全住民の賛同が得られたわけではなく、批判もありました。しかし、賛同を得られた地域から取り組みを始め、実際の成果を通じて徐々に賛同を得、最終的に48地区すべての地域がまちづくりの取り組みを実施しました。行政ではなかなか実現できない生活道路の整備や生活排水路の整備も行われました。また、計画から実施まで、すべて



住民の手で行われることから、さまざまなステージで主役が登場しました。また、自分たちが創りあげ

た地域であるという意識から、地域に対する愛情と誇りが育まれました。

事業がスタートして間もない頃の話です。集落の中で、他の家より少し離れて1軒だけ民家がありました。話し合いの中で、道をつけることになり、みんなの力で幅3mの道路が完成しました。ねじれたブロック積み、波を打った舗装…。どうしても専門業者と比べると見劣りがします。

「すまん。ええ道にならんかった。」と地域の人のごわりを言うと、その家に住む方が「何十年も車が通れる道がほしい」と思っていた。利益を受けるのは自分だけなのでどうしても言えなかった。

道ができて本当に嬉しい。」と涙を流さんばかりに喜んだというエピソードがあります。地域の中で一番困っている人のことを考えて取り組んだことに大きな意味がありました。ねじれたブロッ



クの中にはたくさんのドラマがあり、波打った舗装の中には地域の人たちの汗がしみ込んでいます。自らが知恵を出し、汗を流しながら作った道路や公園、広場には、一人ひとりの愛情が詰まっています。しかし、道路作りなどの基盤整備は、あくまでも地域コミュニティを進めるための手段であり、最大の目的ではありません。運動広場ができれば運動会、集会所ができれば敬老会や料理教室といったように必ずコミュニティ行事がついてまわります。地域の人々の知恵と汗が地域コミュニティを創り出すのです。

## 一荷合力

沼隈には昔から「一荷合力」という言葉があります。「一荷合力」とは、「地域のことはみんなで助け合う」という意味です。一荷合力は、昔から当たり前前にされてきたことでした。しかし近年、町内会の未加入世帯が増えるなど、地域のつながりの希薄化が問題になっています。2011年3月11日に起きた東日本大震災。あの大変な混乱の中、まず機能したのが地域の力でした。今、地域のつながりが見直されています。この夏は地域の夏祭りに参加してみませんか？住民学習会に参加してみませんか？そこで創られたつながりが地域の力になるのです。